

認知症って治るの？

若年性認知症同士の対談を通じて探る

若年性認知症当事者であり、当事者団体の立ち上げ・メディア出演など、社会に向かって発信を続けている“丹野智文氏”“竹内裕氏”による対談イベントです。

1. 日時：平成30年2月27日(火) 13:00～15:00(受付は12時から)
2. 場所：新所沢まちづくりセンター 1階ホール
※新所沢駅西口から徒歩5分
3. 参加費：1000円
4. 問合せ先：特定営利活動法人ブーゲンビリア
泉 志津子：080-8158-8949
協力：ところざわ倶楽部 脳活サークル



丹野智文 宮城県仙台市出身。

東北学院大学(仙台市)卒業後、県内のトヨタ系列の自動車販売会社に就職。

トップセールスマンとして活躍していた2013年、39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断を受ける。同年「認知症の人と家族の会宮城県支部」の「若年認知症のつどい『翼』」参加。14年には、全国の認知症の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立した。15年から、認知症の人が、不安を持つ当事者の相談を受ける「おれんじドア」を仙台市内で毎月、開いている。著書に、「丹野智文 笑顔で生きる ―認知症とともに―」(文芸春秋)。



竹内裕 広島県広島市出身。

営業一筋で役員として働いてきたが、57歳頃から職場や取引先でトラブルが続き、勤務先の社長に受診を勧められる。59歳で前頭葉側頭葉認知症との診断を受ける。その後のボランティア活動や生活生涯講座など多忙な日々を送っている。特定非営利活動法人もちもちの木「たぬき倶楽部」代表。

<丹野智文さんの講演会から>

講演会は自ら書いた書面を読み上げるものであった。

若年性であるがゆえに客観的にものを見ることが出来ていたし、病気をオープンにすることで、「家族と周囲の方の協力を得る事」ができた。アルツハイマーの薬の副作用など病気に真摯に向きあうことにより「不安を乗り越えることが出来た」と。